



大砂土中だより

はつ らつ

澗 刺 と



さいたま市立大砂土中学校

048-684-8004

<http://osato-j.saitama-city.ed.jp>

No.8 令和6年12月2日号

今年の終わりに…

校長 倉林 弥生

いよいよ師走。木々の葉もようやく紅葉し始め、日々肌寒さが感じられる時期となりました。

11月があっという間に過ぎる中、吹奏楽部が11月17日に行われた市のアンサンブルコンテストにて木管部門で金賞、金管部門で銀賞を受賞しました。日々の練習の成果が表れた喜ばしい結果です。また11月13日には小・中学校合同音楽会が市文化センターにて開催され、校内合唱コンクールで3年最優秀賞を受賞した3年1組が本校の代表として参加し、中学校の一番手として合唱『親知らず子知らず』を発表しました。音楽会に参加された方から「圧巻の歌声に思わず涙が出ました。」と連絡をいただきました。ここでも大砂土中学校の生徒が「合唱」という形で人々に感動を届けることができたことを嬉しく思います。大砂土中学校の誇れることを増やすことができた月日となりました。

さて、私は11月の初旬に河合教頭と分担をし、3年生の集団面接の練習を行いました。それぞれ度合いは違いましたが、校長室に入室する際には、誰もが緊張していることがよく分かりました。

私が感じたのは、そのような状況下でも、こちらの質問に対し、落ち着いて自分の考えをしっかりとと言える人が多かったということです。大砂土中学校の3年生を改めて見直しました。

では、このような面接における正しい答えとは、どのようなものなのでしょうか。実は正しい答えなどはありません。面接する側は、その返答を聞きながら、「この人はどういう人なのか、何を考えているのか」と思いながら、限られた時間の中で一人ひとりの「人間らしさ」、つまり「人間性」を見極めていきます。「人間性」とは、ある意味「人生そのもの」であり、そんな簡単に培われるものではありません。たいへん時間がかかります。だからこそ、日頃から勉強したり、色々な体験を積んだりして「自分磨き」を継続することが、人として大切なことになってきます。そしてそれが周囲に惑わされない芯のある「ぶれない心」を作り上げます。是非、皆さんには「自分磨き」をこれからもずっと続けながら、「人間性」をより一層高めてほしいと思います。

長かった81日間の2学期もあとわずかです。そして今年も間もなく終わり、すぐに新しい年がやって来ます。12月は何かと忙しい月ですが、一年の締めくくりをすると同時に新しい年への思いを抱く月でもあります。まずは、最後まで気を抜かずしっかりと終業式が迎えられように学校生活を送りましょう。今年一年を充実した気持ちで終えることで、新年への新たな決意、志しが芽生えると思います。また、3年生は進路決定に向けて準備を完了しなくてはなりません。「学力」に加え、「体力」も実力のうちです。体調管理にも意識を向けてください。

末筆ながら保護者の皆様には、この冬休みは、御家庭でもお子様との会話を大切に、家庭での生活を見直すよい機会と捉え、新年の目標をしっかりと立てさせ、励ましていただけたらと思います。

皆様にとり、新しい年が幸多き年となりますようにお祈り申し上げます。

来年も引き続き、御支援と御協力をよろしくお願いいたします。 *Have a great new year!*



本校正門のイチョウの木・葉が黄色く色づいてきました